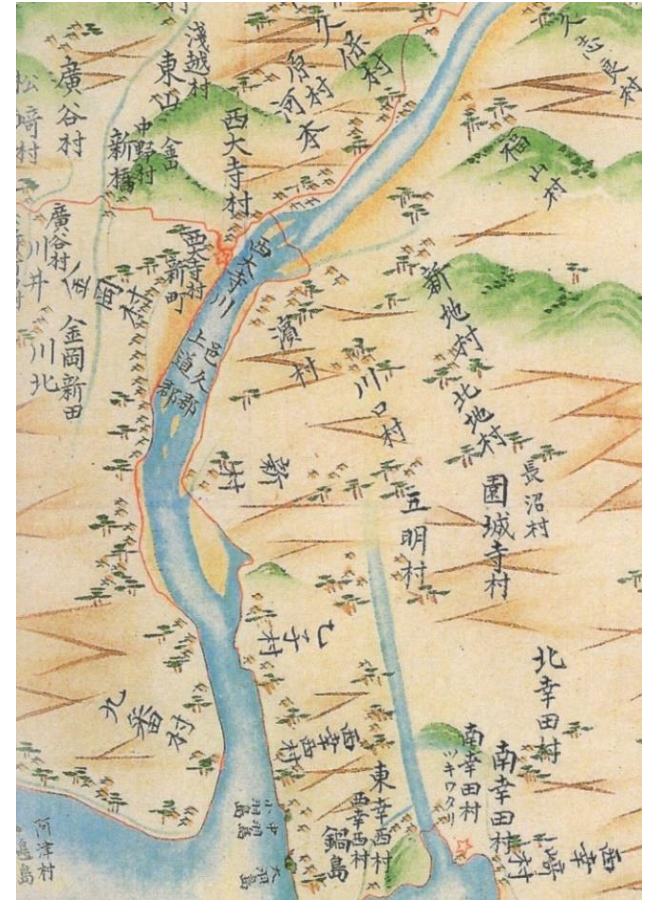


西大寺を二度訪れた伊能忠敬 Part3 窪田浅五郎について



2021年11月28日
西大寺愛郷会
藤井 英幸



伊能忠敬の測量に同行した 窪田浅五郎について

- 上道郡沖新田内七番（現岡山市東区君津）生れの岡山藩士、和算家。
- 岡山藩の暦学者原田元五郎に師事して算術を学び、1796年（寛政8）11月、算術20箇条についての“浅五郎算術免状”を元五郎より授与される。
- 1805年（文化2）2月、岡山藩に召し出されて、2人扶持を給され、町会所に勤務。
- 同年12月、伊能忠敬が第五次測量の為、岡山を訪れるや岡山城下の脇本陣福岡屋へ止宿中の忠敬を訪れ、暦術について話し合い、岡山庭瀬から、安芸国忠海迄同行測量。
- 1812年（文化9）路程車を考案。
- 窪田浅五郎知至と変名。

窪田浅五郎の年表

和暦	西暦	年齢	内容
安永2年	1773年	0	上道郡冲新田内七番（現岡山市東区君津）で生れる。
寛政8年	1796年	23	備前の暦算家・原田元五郎に算術を学び、算術免状を授与。
文化2年	1805年	32	2月、岡山藩士、2人扶持、町会所通之子見習いにと立られる。 
文化2年	1805年	32	12月7日、伊能忠敬と暦利（術）について談ずる。
文化3年	1806年	33	正月20日より、 伊能忠敬第五次測量隊に随行 し、岡山の庭瀬町から広島の新海湊（現竹原市）まで測量や観測を行う。 
文化9年	1812年	39	伊能忠敬が使用した「 量程車 」をヒントに 路程車 を完成させる。5台製作。 
文化10年	1813年	40	12月10日伊能忠敬第八次測量隊の止宿牟佐村大庄屋安藤佐平治を訪ね、 肥後八代紙子を贈る 。12月17日、濱方見廻役に 
文化11年	1814年	41	11月26日同心役に
文化13年	1816年	43	7月5日江戸表御見分使に
文化14年	1817年	44	3人扶持見届役并批事方見届兼帯
文政3年	1820年	47	正月上道郡松崎新田村嘉左衛門三男嘉吉を養子に
天保2年	1831年	68	6月16日日時計御用に
天保9年	1838年	75	7月27日 没する 。 

先祖并御奉公之品書上

先祖并御奉公之品書上

先祖并御奉公之品書上

一 先祖上道初沖利園七番百姓高座の
一 祖文庫田法部公在田不常八郎
中者一昨高座の文化二年乙丑二月十日
沙人少枝持方不所合不通之寺宿高座抱
方ぬい

一 文化四年丁卯二月十二日少枝持方不所合不

少枝持方不所合不通之寺宿高座抱
方ぬい

一 同七年庚午七月二日骨持方不所合不
方ぬい

一 同十年癸酉二月廿一日殺高座實負方不所合不
方ぬい

一 同年十二月十七日殺高座實負方不所合不
方ぬい

窪田浅五郎について

第八次西大寺測量 文化10年12月



先祖并御奉公之品書上

先祖上道郡沖新田内七番御百姓二而御座候
祖父窪田浅五郎義右同所常八郎と

申者之悴二而御座候文化二年乙丑二月十二日
式人御扶持被下町会所通之子見習御召抱被成候

文化四年丁卯二月十二日御切米七俵式人
御扶持被下通之子本役被 仰付候

同七年庚午七年二月骨折相勤候付御切米
壹俵御増被下候

同十年癸酉二月廿一日数年實貞相勤候付
御切米壹俵御増被下候

同十年十二月十七日数年無情怠出積相勤候付
御切米三俵御増被下濱方見廻役被 仰付候

同十一年甲戌十一月廿六日御切米貳拾五俵
式人御扶持被下同心役被 仰付候

同十三年乙子七月五日内海為御見分後
江戸表御見分使成付分検御手当為

御用御郡方方御雇被米倉村へ出張
仕御様被 仰付候十二月廿七日右御用相勤

候付御郡方方金子貳百疋頂戴仕候
同十四年丁丑十月廿一日格別之趣意

御座候而切米拾九俵三人御扶持被下見届役并
批事方見届兼帶被 仰付候

文政三年庚辰正月願上上道郡松崎新田村
嘉左衛門三男嘉吉を養子二仕候

天保二年辛卯六月十六日御日時計御用被
仰付格上申候付右為御會釈金子貳百疋

御小納戸手方頂戴仕候
同四年癸巳十二月八日数年無情怠出積

相勤候付格別御切米貳俵御増被下候
同九年戊戌七月廿七日行年六十六歳二而

病死仕候
右は祖父浅五郎相勤候品二御座候

父同姓嘉吉義文政三年庚辰六月廿一日
通之子見習被 仰付候 (中略)

私義天保九年戊戌七月十日町会所
通之子見習被 仰付候 (中略)

安政元年甲寅十二月晦日
水原太右衛門殿

「先祖并御奉公之品書上 窪田善之介」より

明治二己巳朔日
善之と変名仕候

天保九戊戌正月方願
常八郎と変名仕候

第五次西大寺測量 文化2年11月

窪田浅五郎「覚書」



測量方御役人伊能氏
丑十二月朔日

へ着被致夫方直二

岡山福岡屋吉郎兵衛方 越年

夫方寅正月十八日同所出立二而

西国へ被罷越候 其節自分義

西国八道後へ湯治之願二而内聞

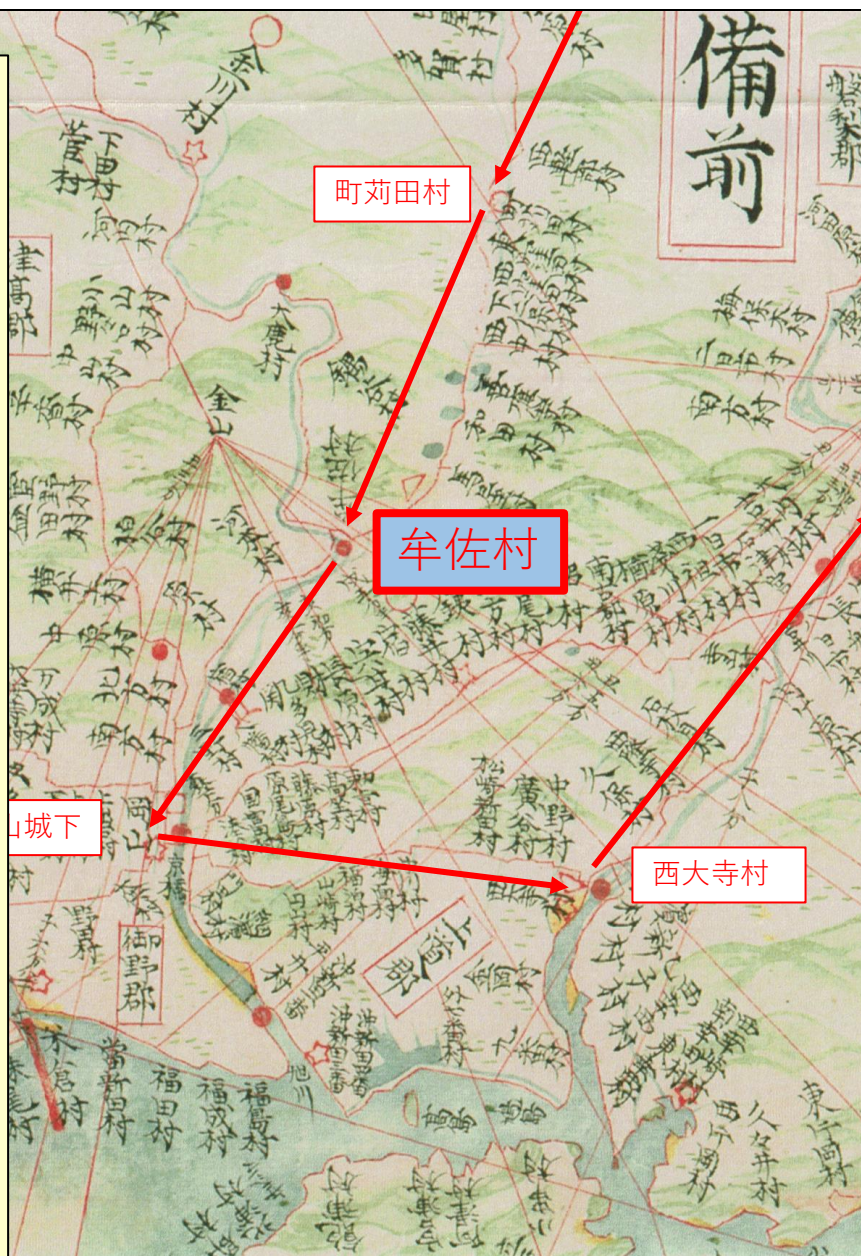
付廻り候 覚書

文化三丙寅歳二月

測量方御役人伊能氏
夫方寅正月十八日同所出立二而
西国へ被罷越候 其節自分義
西国八道後へ湯治之願二而内聞
付廻り候 覚書
文化三丙寅歳二月

浅五郎が表向き、岡山藩へは道後温泉へ湯治に出かける旨の休暇願を提出して、忠敬の測量隊に同行したと思われる。
忠敬の測量日誌には二十日から同行したと記されているが、十八日の出立時からの同行がうかがえる。

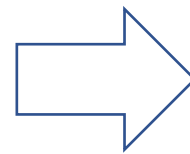
十二月十一日晴曇 六ツ時牟佐村出立・・・



止宿 年作村 安波佐手宿 備中道郡 姓尾 彰太郎 奉事 谷部平ト三人名
同山 庄田 渡辺 郎三郎 赤坂 郡大老 同家 氏主 政久 六郎 八次 景清
十二月十一日晴曇六時午佐村書口村字渡場 卯印分種朝日川 七十九五八寸 和波
市野郡河和村 宮本ノ子通河和村 平原系村宿持三野村 霞茶屋
⑦印夕油と 一里。九町二石 此ハ八幡八幡宮也 朝日川 川中島 又朝日川台
上道郡中修村 八幡村 八幡宮北寄 亦上 十二町。九石 八幡宮祭神 仲衣元皇主
社領 祭日八月五日 神主 見地小膳 又市野郡三野村字有住茶屋 ⑧印夕神 仲衣元皇主
北方村 四日市 中井 金川御殿 寺 出宝二月廿九日 碑 弘永 一十三町 寺 寶乃 側各一里半 國
外方上 右側二里三四町 寺 左方北方村中井百姓時一町 寺 土方七洲八早時後 仲衣元皇主
細川中書 今統 此夜大量の湖 町目付 左田系之寺 若年寄 常盤石卿 御免是掃 細川園主 奈の

永井門谷保本 壬戌七子合 福田通 岡山洲

備後畳表について



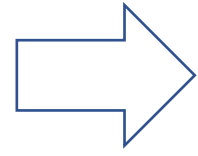
広島・福山両藩の備後地方の藁草(いぐさ)で織った畳表。

主産地を形成する備後国（広島県）沼隈(ぬまくま)・御調(みつぎ)郡地方では、すでに天文(てんぶん)・弘治(こうじ)年間（1532～58）に引通(ひきとおし)表が織られていた。

福島氏時代（1600～19）沼隈郡では27か村で772機の畳表織機があり、中指(なかさし)表も織り出された。

毎年幕府献上品3100枚、畳表改役(あらためやく)による製品管理が厳重に行われた。福山藩主が水野氏になると、献上表は幕府買上げの御用表となり、1647年（正保4）備後表座とよぶ独自の買上げ機構が設けられた。

肥後八代紙子



- 八代紙子は『日本山海面物図会』「諸国紙子の名物」中に「肥後八代紙子」と見えているし、京都竹屋町の紙子屋十兵衛の引札には「大極上 肥後」と書かれてある。
- 紙衣（かみこ、かみころも、かみきぬ、しえ[古語]）は和紙を材料とした着物のことである。紙子（かみこ）とも言う。
- 平安中期に和紙が大量生産されて普及した結果、紙が本来の目的以外に利用されるようになり、もともと麻クズを原料にして製造されている和紙は衣料として利用されるようになった。
- 絹の衣よりも安価なため、低所得者が利用する着物と思われがちだが、丈夫で持ち運びに便利なため、武士や俳人などが好んで利用し、性空や親鸞が愛用していたことでも知られる。

[八代紙衣（紙衣の産地）](#) (kagami.net) [紙衣](#) - Wikipedia

伊能忠敬 第五次測量隊 岡山県の足跡

伊能忠敬 第五次測量隊 岡山県内の足跡					岡山城下～笠岡村																							
宿泊日 旧暦	西暦	天気	止宿場所	宿泊宅	天体観測	測量地	東河	天文方	高橋	坂部	下河辺	平山	稲生	永沢	小坂	佐藤	文助	半六	從者	総兵衛	角二	栄治	利助	吉平	竿取	弥右衛門	隨身	丈右衛門
1月17日	3月6日		岡山城下	福岡屋吉郎兵衛		朝曇晴。測器を磨き荷物を仕舞う。大阪、間氏より来状。即、返書を認め、暦局行の書状を封じ込み、大坂、間清市郎へ遣す。																						
1月18日	3月7日	朝 晴 夜 大曇天	庭瀬町	今保屋善右衛門	不測	庭瀬町より松島村まで測る。備中、備前国吉備津宮へ参詣 岡山下之町止宿前より初、庭瀬町まで測る。	○		○			○			○		○				○				○			
1月19日	3月8日	朝 曇 夜 晴	連島 大江村	大庄屋格仙右衛門	恒星測定	沖村前より連島大江村止宿迄測る。仕越、亀島新田迄測る。 庭瀬止宿前より沖村まで測る。		○				○			○		○	○			○	○						
1月20日	3月9日	朝 晴	黒崎村	名主礼蔵		乙島村養父母岬より初、玉島村、赤島村、柏島村等を測 亀島新田地内より初、西浦村上成村を経て乙島村の岬を測 下水島を測	○		○		○				○	○										○	○	○
1月21日	3月10日		入江新田村	名主新兵衛		東大島村地内より初、入江新田まで 黒崎村地内より大島村地内まで 寄島、三郎島			○		○		○						○		○				○			
1月22日	3月11日	朝 晴	真鍋村 本浦	名主伝右衛門		乗船、真鍋島の属、大島、元小島を測 真鍋島周囲を測 六島を測	○				○				○		○	○			○	○		○				
1月23日	3月12日		白石島			三番と手分にて、北木島を測 大飛島、小飛島を測 トイ島、北木島を測	○		○	○					○					○	○			○				○
1月24日	3月13日		白石島		測量なし	揖小島、北木島の残りを測る 白石島の周囲を測る 高島、小高島を測（アマキ島、高砂島、カナリ島遠測）	○		○		○						○		○	○								○
1月25日	3月14日	朝 曇	入江新田村	名主新兵衛		神の島を三番と手分けにて測。奥与神社前より初 メウジ島、稻積島、指出嶋を測、大殿洲島、小殿洲島を測 奥与神社前より手分け、一番と神ノ嶋字汁方にて合測	○		○			○						○		○		○		○				○
1月26日	3月15日	朝 雨	入江新田村			逗留、備中国窪谷郡水江村岡本助之丞、古松軒より 添言の由にて測量随身を願う。辞して帰す。						病 欠																
1月27日	3月16日	朝 晴	笠岡村	西本願寺末浄心寺		片島、木ノ小嶋 入江新田より笠間まで 備後備中国界、茂平村より逆測、笠岡へ向い測	○		○	○							○				○	○			○			○

窪田浅五郎の測量随行



	年月	日	測量日誌記載内容
第五次	文化二年十二月	七日	朝曇 郡蔵 伊兵衛病気 同断（夜晴）窪田浅五郎逢談を願に付曆利（術）を談す
	文化三年正月	廿日	廿日より岡山の弥右衛門 浅五郎 丈右衛門 三人隨身なり
		二十三日	三番高橋、佐藤、浅五郎、（丈助、総兵衛）、トイ島を測。
		二十七日	三番高橋、佐藤、浅五郎、（丈助、総兵衛）、備後備中国界、即備中国茂平村より逆測。
		二十八日	坂部、小坂、佐藤、浅五郎、（吉平、角二）、引野村より初川口村迄測
		晦日	高橋、稻生、小坂、浅五郎、（吉平、総兵衛）、仙碎島、皇后島を測る。
	文化三年二月	朔日	一番東河、丈右衛門、浅五郎、（丈助、半六）、鍛冶島を測。
		三日	三番高橋、稻生、浅五郎、（吉平、総兵衛）、田嶋村を手分にて測る。
第八次	文化十年十二月	十日	止宿牟佐村大庄屋安藤佐平治 備中下道郡妹尾新三郎 瀬尾是輔尋来る 谷東平と三人にて備後畳表を贈る 岡山窪田浅五郎来る 肥後八代紙子を贈る
	* 窪田浅五郎「測量留」によると、十二日西大寺坂口屋へ止宿中の忠敬を再訪、同地へ宿泊。翌日坂根へ同行している。（岡山県立博物館 研究報告12 平成3年3月より）		



第八次（文化10年） 浅五郎の測量留（同行記）

一 同十二月十日 牟佐村大庄屋佐平治方へ伊能先生
止宿被致候 同夕星測之仕構有之 但曇天二而星測無之
自分・新三郎・是輔三人共 同村久左衛門方へ逗留十一日
早朝相立町会所へ帰り当方相務 今泉又兵衛殿八同村
同村三郎兵衛方へ止宿也

一 同十一日 岡山福岡屋吉郎兵衛へ先生止宿被致
同十二日 西大寺村坂口屋へ先生止宿被致 自分義
源次方へ止宿

一 同十三日 一日市村本陣勇吉昼休
同十三日 坂根村名主三郎右衛門へ先生止宿 自分
義も同家へ止宿

一 同十四日 磐梨郡吉原村幾之介昼休
同夕 和氣郡和氣村秋山千右衛門へ止宿
同十五日 和氣郡矢田村名主太三郎昼休
同日 小休 和氣郡塩田村大庄屋十四郎
同夕 赤坂郡周匝村上町名主八郎左衛門止宿

測量留

伊能忠敬に同行か

文化十年

岡山県立博物館所蔵

複写版岡山県立記録資料館所蔵

一 同十二月十日 牟佐村大庄屋佐平治方へ伊能先生
止宿被致候 同夕星測之仕構有之 但曇天二而星測無之
自分・新三郎・是輔三人共 同村久左衛門方へ逗留十一日
早朝相立町会所へ帰り当方相務 今泉又兵衛殿八同村
同村三郎兵衛方へ止宿也

一 同十一日 岡山福岡屋吉郎兵衛へ先生止宿被致
同十二日 西大寺村坂口屋へ先生止宿被致 自分義
源次方へ止宿

一 同十三日 一日市村本陣勇吉昼休
同十三日 坂根村名主三郎右衛門へ先生止宿 自分
義も同家へ止宿

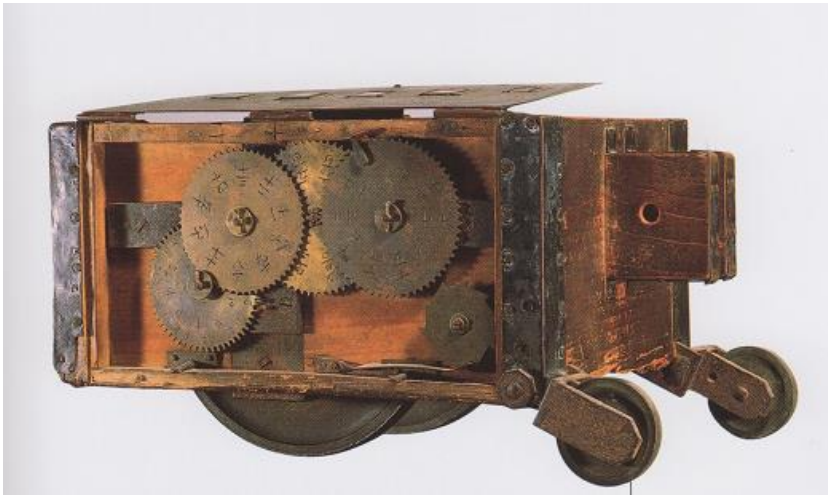
一 同十四日 磐梨郡吉原村幾之介昼休
同夕 和氣郡和氣村秋山千右衛門へ止宿
同十五日 和氣郡矢田村名主太三郎昼休
同日 小休 和氣郡塩田村大庄屋十四郎
同夕 赤坂郡周匝村上町名主八郎左衛門止宿

測量日誌と測量留（同行記）



文化10年	忠敬測量日誌	浅五郎測量留(同行記)	浅五郎止宿
12月10日	止宿 牟佐村大庄屋安藤佐平治	止宿 牟佐村大庄屋佐平治	
12月11日	止宿 福岡屋吉郎兵衛	止宿 岡山福岡屋吉郎兵衛	
12月12日	小休 伯耆屋儀兵衛 昼休 庄屋安二郎 止宿 坂口屋松左衛門、五明屋惣治郎	止宿 西大寺村坂口屋	源次方
12月13日	止宿 庄屋三郎右衛門 百姓吉右衛門 庄治郎 源五郎	昼休 一日市村本陣勇吉 止宿 坂根村名主三郎右衛門	坂根村名主三郎右衛門
12月14日	止宿 本陣秋山十右衛門 脇丸屋元助	昼休 磐梨郡吉原村幾之介 止宿 和気村秋山千右衛門 →十右衛門の間違い	
12月15日	昼休 庄屋平吉 止宿 本陣八郎左衛門 脇六郎兵衛	昼休 和気郡矢田村名主太三郎 小休 和気郡塩田村大庄屋十四郎 止宿 周匝村名主八郎左衛門	

「量程車」と「路程車」



「量程車」（左上）

高橋至時の設計と伝えられている。
当時の海岸や街道は凸凹が激しいので、誤差が生じ、実用的ではなかった。



「路程車」（左下）

窪田浅五郎設計と言われている。
本体（木製）は長さ16.2cm、幅9.3cmで、総重量は約1kgです。
大きな方の車輪（鉄製）を使って距離を測ります。その直径は20.2cmと計測され、円周が約63.5cm（約2尺1寸）となります。これが3回転すると6尺3寸となって、1の位の目盛が1つ進む仕組みとなっています。1間として6尺3寸が使われたと理解できます。

岡山で発見された「路程車」



江戸てく
—東備と測量家たち—

備前市歴史民俗資料館 企画展
2015.10.23(金)
-12.6(日)

開館時間 / 9:00~16:30
入館料 / 無料
休館日 / 月曜日・祝日の翌日

備前市歴史民俗資料館 企画展
2015.10.23(金)
-12.6(日)

岡山生でたの測量器具 本邦初公開!

備前市歴史民俗資料館 企画展
2015.10.23(金)
-12.6(日)

江戸てく
—東備と測量家たち—

本展では、伊能忠敬が全国測量後に活発化していく備前国の測量家（窪田五郎・田淵弥三郎を中心に）を取り上げ、東備地域に残された絵図を中心としながら、江戸時代後期の岡山地域における測量の技術力へ迫ります。

“路程車”
岡山生でたの測量器具！
伊能忠敬も（1773〜1838年）の設計で、

路程車とは、伊能忠敬が全国測量中の享和元年（1801）から使用した“量程車”をヒントに、窪田五郎が文化9（1812）年に完成させた測量器具。引っぱって歩くと距離が測れます。伊能忠敬が手紙で欲しいと言いたにも関わらず、手に入れることが叶わなかった。“上部に目盛りがついた量程車”を実現させています。同様の測量器具がナレイな状態で見つかるのは珍しく、路程車の公開は初めて。愛らしい外見の中には、緻密な技術が詰まっています。

備前の測量家たち

■窪田五郎 備前の著名な測量家・原田元五郎に算術を学び、寛政8（1796）年には算術免許をもらわれ、文化2（1805）年に岡山藩士となりました。伊能忠敬の測量に同行、岡山各地で測量や観測を行い、路程車を発明しています。

■田淵弥三郎 謎の測量家。天保年間（1830〜1844）に岡山の村絵図を作成して送っており、備前市内でもあらに彼が作った巨大な絵図が残っています。路程車の持ち主で、息子・幸次郎も絵図製作に携わりました。

江戸後期の測量器具 2015.10.8 山陽新聞

「路程車」岡山で発見

備前市歴史民俗資料館 23日から公開

備前市歴史民俗資料館（同市東片上）は7日、江戸後期に県内で作られた測量器具「路程車」を岡山市内で発見したと発表した。岡山藩士で測量家の窪田五郎（1773〜1838年）の設計で、

作られた測量器具「路程車」を岡山市内で発見したと発表した。岡山藩士で測量家の窪田五郎（1773〜1838年）の設計で、

岡山市内で見つかった江戸時代の測量器具「路程車」

は長さ16・2寸、幅9・5寸、高さ9・3寸。直徑20・2寸の後輪（鉄製）を含む車体は約1・5寸。後輪が3回転すると約2寸になり、本体上部の目盛りに積算距離が示される。

窪田家文書（県立博物館蔵）により、路程車は、窪田が1812年から翌年にかけて6台製作したことが分かった。昨年7月、同資料館の学芸員が岡山市内の旧家に保存されているのを発見した。

同資料館などによると、江戸時代に日本列島の正確な地図を作成させた伊能忠敬が1828年（文政10）に、

路程車は23日、12月6日に同資料館で公開する。入場無料。問い合わせは同館（0869-94428）。（岸後行）

備前市歴史民俗資料館は2015年10月7日、江戸後期に岡山で発見した「路程車」を公開した。岡山藩士で測量家の窪田五郎（1773〜1838年）の設計で、

岡山市内で見つかった江戸時代の測量器具「路程車」

は長さ16・2寸、幅9・5寸、高さ9・3寸。直徑20・2寸の後輪（鉄製）を含む車体は約1・5寸。後輪が3回転すると約2寸になり、本体上部の目盛りに積算距離が示される。

窪田家文書（県立博物館蔵）により、路程車は、窪田が1812年から翌年にかけて6台製作したことが分かった。昨年7月、同資料館の学芸員が岡山市内の旧家に保存されているのを発見した。

同資料館などによると、江戸時代に日本列島の正確な地図を作成させた伊能忠敬が1828年（文政10）に、

路程車は23日、12月6日に同資料館で公開する。入場無料。問い合わせは同館（0869-94428）。（岸後行）

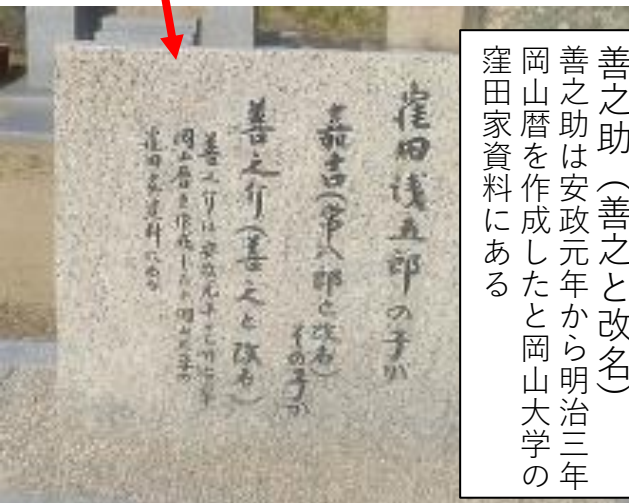
（右の写真 2015.10.8山陽新聞記事より）

2015年10月に備前市歴史民俗資料館の企画展で公開された。（左の写真）

窪田家の墓地

2021年11月26日撮影

窪田家先祖供養塔
裏面に「平成十九年二月吉日
窪田将文建立」の記名がある



窪田浅五郎の子が
嘉吉（常八郎と改名）
その子が
善之助（善之と改名）
善之助は安政元年から明治三年
岡山暦を作成したと岡山大学の
窪田家資料にある



窪田浅五郎の墓



勝義諦道信士



窪田浅五郎知至墓

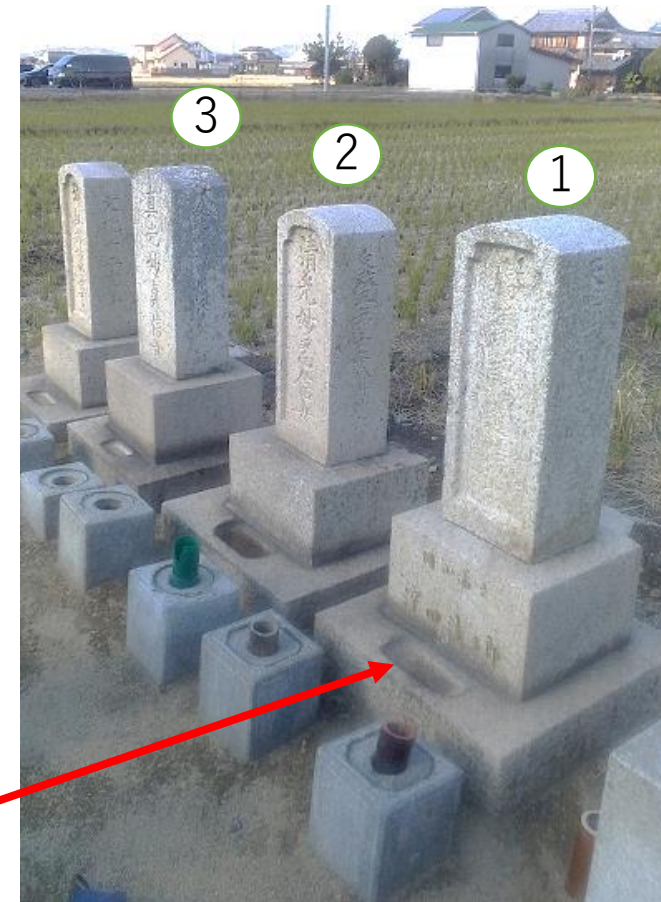


天保・
以下判読不可

窪田浅五郎の没年
天保9 (1838)年7月27

目

岡山藩士
窪田浅五郎 の刻印



	戒名	俗名	年号
①	勝義諦道信士	窪田浅五郎知至	天保
②	清光妙忍信女	窪田浅五郎妻	天明五年
③	真光妙貞信女	窪田浅五郎女同姓嘉吉妻	文政

家系図

窪田浅五郎知至の家系図



窪田常八郎	生没不詳。上道郡冲新田の百姓。 浅五郎の父。
浅五郎知至	安政2(1773)生、天保9年(1838)没。岡山藩士、和算家。
嘉吉のち常八郎	生没不詳。上道郡松崎新田村嘉左衛門の三男。文政3年(1820)、長女の 養子 に。岡山藩士。
善之助のち善之	文政7(1824)生、明治10年(1877)没。岡山藩士。幕末から明治の暦法、算数家。 浅五郎の孫。
静太郎	慶応元(1865)生、昭和21年(1946)没。日本の内務官僚、行政裁判所長官。 善之の長男。
幹太	明治20(1887)生。法學士、判事。山田常次(不詳)の弟を 養子 に
知孝	大正9(1920)生。幹太の長男。 静太郎の孫。

窪田弘	平成2(1990)、岡山県立博物館に窪田家資料を寄贈。岡山県出身で埼玉県の人。
窪田将文	平成19(2007)、窪田家先祖供養塔を建立。邑久豊原、服部公人氏の弟、弘氏の養子に？名古屋の人。
原田元五郎	元文5(1740)生。江戸時代中期-後期の暦算家。岡山藩士。浅五郎の算術の師。原田茂嘉
田淵弥三郎	岡山の測量家。天保年間に岡山の村絵図を作成。路程車の持ち主。
平松紹右衛門	江戸後期の大庄屋(窪屋郡二日市村)。地理学者。浅五郎と共に第五次測量に随行。測量日誌は丈右衛門と記載。